

松編みの覚え方

模様編み【松編み】の考え方

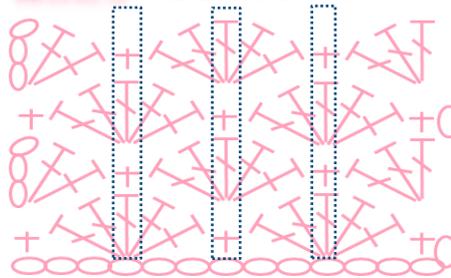


【模様の説明】

「長編み5目」と「細編み1目」で出来ている模様を連続して編み進めます。この時、奇数の段と偶数の段では互い違いにして編み進めます。段（縦）では、「長編み5目」の真ん中の長編みに「細編み1目」が交互がくるように編み進めます。

編み記号

※左の写真とは段数省略しています。



【段（縦）】
「長編み」と「細編み」が交互になる

1つ分の模様



【横（目）】

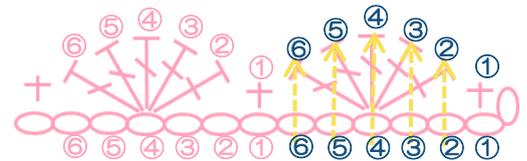
「長編み」と「細編み」が交互になる目は、隣の模様と重なっている（上の図の黄色い部分、左の図では青い点線で囲った部分）

「横6目・縦2段（鎖編み4目分）」で一つの模様が出来ている

この模様の編み方を「編み物算数」的に説明します。

【模様編み1段目】

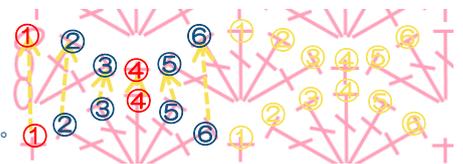
- ① 土台の鎖編みを編みます。
- ② 細編みの立ち上がりは「高さ」にだけ必要なので、立ち上がりの鎖目を1目編み土台の鎖編みにも細編みを1目編みます。…編み物算数③
（この細編みの「頭」が次の段を編むときの土台となる）
- ③ 長編みは「鎖編み3目」と同じなので、3目先の鎖編みに長編みを編みます。そのまま同じ目に合計5目の長編みを編みます。
- ④ 左右対称の模様なので、③と同じ考え方で3目先の鎖編みに細編みを1目編みます。
- ⑤ ③と④を繰り返します。



※土台の鎖編みと「頭」の数は同じ

【模様編み2段目】

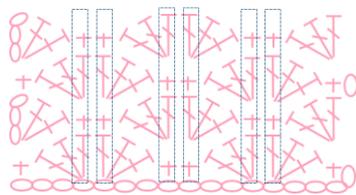
- ⑥ ひとつ前の段と互い違いになっているので、細編みの上には鎖編み3目で立ち上がります。この鎖編み3目が、「長編み5目」の模様のうち、真ん中の長編みの代わりになります。（長編み＝鎖編み3目…編み物算数②）
- ⑦ 模様が「長編み5目」の真ん中からはじまっているので、残りの2目の長編みを編みます。
- ⑧ 下の段の真ん中の長編みに「細編み1目」を編みます。
- ⑨ 下の段の「細編み1目」に「長編み5目」を編みます。



3段目以降は1段目2段目と同じ要領で編みます。

【柱の模様】と【畳の模様】

「松編み」のように、「数目と数段」からなる「1模様」が連続してできる「模様編み」は、とてもたくさん種類があります。作品の地模様として使われる「模様編み」は、ほとんどがこの「数目と数段」の単純な模様パターンの繰り返しで出来ています。（私の方法で恐縮ですが）この単純なパターンの繰り返しの模様を早く覚えるためには、【柱の模様】か？【畳の模様】か？と分けて考えます。「松編み」は【柱の模様】です。



「松編み」を【畳の模様】にすると上のようになります。点線で囲った部分が【畳ぶち】の役割になり、1模様が8目となります。

「松編み」の、「細編みと長編みが縦に並び場所」は、まっすぐに上に続いており、その部分は隣の編み目と共用されながら編地全体の「長さ」を決めています。これが建物の「柱」の役割と似ているからです。なので、編地を面で考えるときには端に「もう1目」分が【柱】として必要となってきます。

これに対して【畳の模様】は「1模様」の両端に【柱】の役割をするものがあります。【畳】の【畳ぶち】と似ているので（勝手に）そう呼んでいます。編み地を早く覚えて、編み図を見ないで編むのに、結構役立っていますのでよかったです。この考え方を使ってみてください。

「松編み」の覚え方：【細編み1目】 + 【長編み5目1度】 & 柱【細編みと真ん中の長編み】で左右対称